KOTOR | 京都府京都市上京区

国内外から注文が相次いでいる。 和傘の構造を活かした照明器具を作り出した。 海外アーティストとのコラボ商品も生み出し、 京都で江戸時代から続く京和傘の5代目が、

和風照明シリーズ「KOTOR 傘の伝統技術を活かして作った わたり和傘を製造している老舗 一日吉屋(ひよしや)」が、京和 創業百余年、京都で5代に が今、話題になっている。

ア

 \Box

 \Box

ア

いという。 テルなどからの問い合わせも多 ても人気があり、さらには店 一般家庭での利用や贈り物とし レストラン、商業施設やホ

「弊社では江戸時代から伝統工一や美しさを活かせる新たな商品

を感じていたなかで、2004 芸の京和傘を制作しています V (平成16) 頃より和傘の技術 ライフスタイルの変化に伴 伝統的な商品だけでは限界

ヨルグ・ゲスナー氏がデザインした「Butterfly」。

を使うデザイナー、ヨルグ・ゲ 種類のデザインも人気を博して tterflyJ、KAZEJ、 ンをしており、氏による「Bu スナーさんともコラボレーショ 「NICHIRIN」という3 また最近は、パリ在住の和紙

されたインテリア関連の国際見 の構造に興味がある』と彼が話 介されました。その時、 デザイナーとしてヨルグ氏を紹 本市会場で、知り合いから商業 「2008年に、ドイツで開催 和傘

開発に取り組んで来ました。 明器具に転用することを思いつ に気付き、これを発展させて照 透過させる手すき和紙の美しさ 目の西堀耕太郎さん。和傘のも つ幾何学的な竹の骨組みや光を そう話すのは、日吉屋5代

月に発売に至った。 本格的に開始し、2006年12 ラボレーションプロジェクトを には照明デザイナーたちとのコ 試行錯誤を繰り返し、最終的

ヨーロッパ、北米、オセアニア RI」の特徴の一つ。アジア、 運搬できるところも「KOTO きるので、コンパクトに収納・ ントにあるという。 など海外からの注文もコンスタ 傘のように開閉することがで

スについて、どのように考えて る日吉屋。伝統と革新のバラン 新的な試みも積極的に行ってい のコラボや新製品の開発など革 格的なコラボが始まりました」 ながら、海外のアーティストと いるのだろうか。 していて、後日来日した時に本 江戸時代から続く老舗であり

> の経過とともに、緩やかに伝統 普通の商品となる。そして時間

す」と西堀さんは言う。 考え方ではないかと思ってい すことが、正常なものづくりの る。こうしたサイクルを繰り返 過程でまた新たな革新が起こ 的な商品に変わっていく。その

向けて、日本文化がさらに海外

3年後の東京オリンピックに

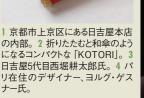
、発信されていく機会も増え

的にその時代に受け入れられ、 その商品が一過性ではなく継続 は車の両輪だと考えています。 伝統からイノベーションを起こ 伝統的な商品と革新的な商品 革新的な商品が生まれる。

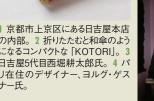
る。そんななか、

日吉屋の









取材協力・写真提供=日吉屋

OTORI」はさらなる注目を

集めることだろう。

黒田隆憲